「日々の理科」（第 3169 号） 2023,-4,10

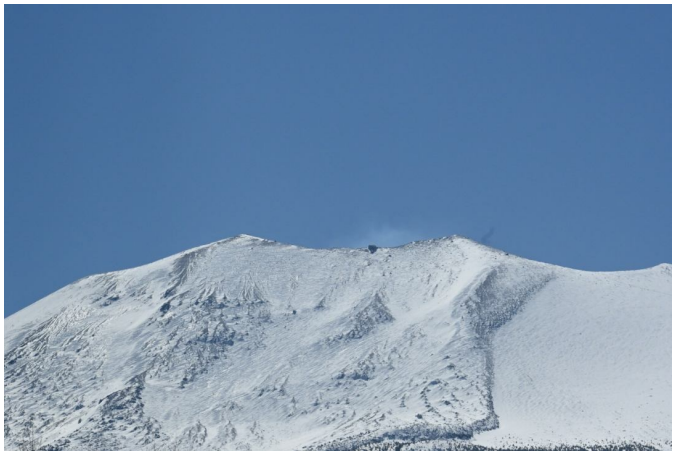
「１・２・おばけ出現！」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所 研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

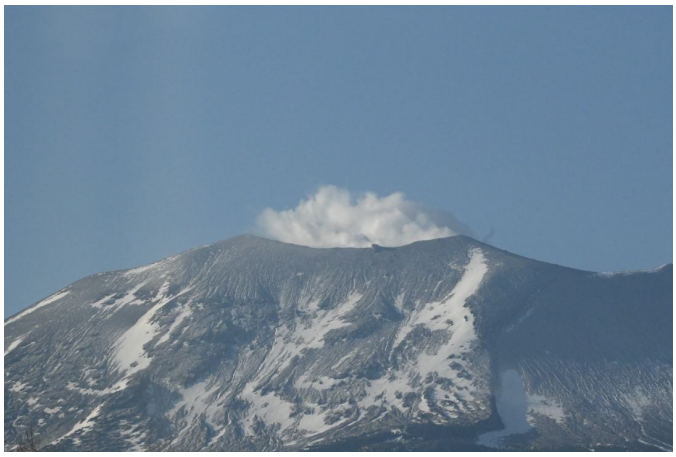
毎年この時期になると、浅間山の山肌に「１・２・おばけ」というおばけが出現する。おばけといっても、「ヒュー、ドロドロ～」というようなシロモノではなく、残雪の形が「おばけ」に見えるのだ。たとえば北アルプスの山々では、春先の残雪の形が山名になったものが多い。「白馬岳」「爺ヶ岳」などがその例だ。浅間山は活火山なので、浸食谷が少なく、はっきりした残雪の形状はあまり見られない。



３月 19 日、浅間山の山頂付近は、まだ雪に覆われていて、残雪の模様は見られない。「１・２・おばけ」は、毎年この山頂火口壁のすぐ下に出現する。

４月１日、雪どけが進んできた。しかし、まだ「１・２」も「おばけ」もはっきりしない。この時期、浅間山の火山活動はやや活発になっていて、山頂付近からは「２本の噴気」が見られた。恐らく、噴気孔が新しく形成されたのだろう。

４月８日、雪どけが進み、ついに「１・２・おばけ」がはっきりと出現した。噴気の根元のすぐ下に、縦書きで「１と２」、その右下に「おばけ」がいる。このおばけは地元では「逆さ馬」と呼ばれているが、私には「おばけ」か「スノーボーダー」に見える。



４月９日、山麓にも少し雪が降り、山頂付近もうっすらと雪が積もった。一時的に「１・２・おばけ」がはっきりしなくなったが、深雪はすぐに消えた。

「１・２・おばけ」は、夜間でも見える。夜は山肌から抜け出して「浮遊靈」になることを期待しているのだが、今まで一度も浮遊したことはない。この模様が見られると、間もなく山麓にも春がやってくる。